



結婚を機に福島県内でゲストハウスを立ち上げることを決めた佐々木夫妻は、2017年に西会津町に移住してきました。二人が西会津町に出会ったきっかけは一冊の雑誌から。「アートで町おこしをしている西会津国際芸術村を知り、興味をひかれて実際に現地を訪ねてみると、現地にきたら、若い世代の人たちが様々なプロジェクトをまさに始めた」として、その雰囲気がこれから事業を起こそうとしている自分たちにぴったりだと思つたんです」

移住直後、雄介さんは農村集落活性化プロジェクトのスタッフ、祐子さんは地域おこし協力隊として働きながら、ゲストハウス開業の準備を進めていきました。「町では空き家を活用した創業支援金の制度や、空き家を紹介してくれる協力隊の存在などがあり、とても助かりました」と雄介さんが話す通り、移住から1年経った2018年の5月に、西会津町・上野尻にて、ゲストハウス「ひととき」をオープン。空き家になつて20年も経つ元桐下駄屋の物件を町内外の友人たちとセルフリノ

ーションしてつくりあげました。オープンの日には100人近い町の人たちが見学に。近所の人からは「空き家になつていた物件に明かりが灯つて、賑やかな声が聞こえてくるのが嬉しい」という声もいただいたそうです。取材中も、近所の子どもたちが顔を覗かせたり、集落の方が野菜をお裾分けに訪ねてくれたりと、この場所が地域の人にも少しずつ受け入れられている様子が印象的でした。

平成30年度末で協力隊を卒業する祐子さんは、来年からはゲストハウスに専業する予定とのことです。ゲストハウスの土間に旅人と地域の人に気軽に使つてもらえるカフェやバーの開業も計画しているそうです。

「西会津の魅力は生きる力が強い人が多いところ。ないものは自分たちでつくる。そんな気持ちをもつている方が多いのも心強い。この場所で長く宿を続けられるよう、これからも地道にがんばっていきたいですね」と話す二人からは、地域とともに生きる、そんな静かな決意が伝わってきました。



佐々木祐子
Yuko Sasaki

福島県郡山市生まれ。大学進学を機に上京し、卒業後は印刷・出版関係の企業で働く。2015年に福島県にUターンしたのち、ゲストハウスの開業を目指し西会津町へ移住。地域おこし協力隊（観光担当）とゲストハウスの二足の草鞋を履いて活動を行っている。趣味は登山と音楽フェスに足を運ぶこと。

佐々木雄介
Yusuke Sasaki

福島県福島市の高校卒業後、進学のため上京。その後、システムエンジニアを経て、2015年福島県にUターン。Uターン先の南相馬市で祐子さんと出会い、2016年結婚。西会津町には2017年移住。ものづくりが好きでゲストハウスではDIY担当。